

曹洞宗 松源寺  
青森県西津軽郡  
鯨ヶ沢町大字赤石町  
字宇名原 117-3

H24.10.10-14

【鯨ヶ沢町-歴史展】  
展示された石見焼  
はんど



浜田高校・阿部志朗教諭  
提供の資料

北前船がもたらした交易品の一つ石見焼の水がめ

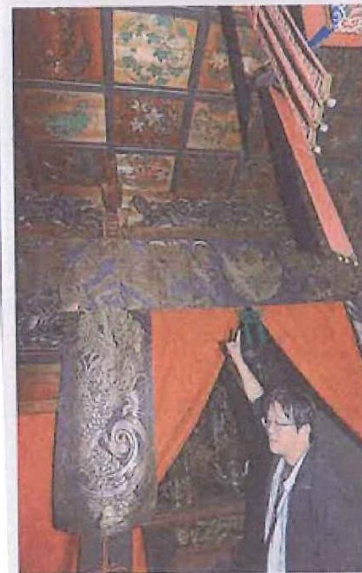


最終日の14日は駅前  
広場とショッピングセ  
ンター・パル駐車場で  
同町の特産品を、PR  
も兼ねて販売する。

# 鯨ヶ沢・かやぶき屋根の松源寺 120年ぶり大改修、瓦に



解体作業が始まった松源寺。かやぶきの本堂は県内でも珍しいといふ



松源寺の建物内。柱や彫り物など状態の良い物は新しい建物に引き継がれる

津軽藩と縁の深い鯨ヶ沢町赤石町の松源寺(曹洞宗、寺田元紹住職)の約120年ぶりの全面建て替えに伴う解体作業が6日、始まった。本堂は珍しい宝形造りのかやぶき屋根から、耐久性などを考え瓦ぶきとなる。町教委は建物の規模・構造を記録。今後は元の建物に使われた土台石なども調べ、寺院および地域の歴史を後世に伝える手がかりにする。

## 町教委、構造など記録

明治中期の火事で焼失後に建てられた現在の建物は雨漏りなど傷みが激しく、かやぶが破れた箇所から野生ザル5、6匹が侵入し屋根裏にすみ着いたほど。約5年前から建て替えの話が持ち上がった。本堂、位牌(いはい)

堂は年内に解体され2014年着工。15年には庫裏の改修が行われ彫り物などを可能な限り再利用する。完成後は現在と同規模(約千平方メートル)になる。全面改修は明治以降初めてで工事費約3億5千万円は檀家(だんか)からの寄付で賄う。調査に協力する日本建築学会会員の中村卓人氏(右手県)は現在で評価できる」と指摘。中村氏によるとかやぶき造りの寺院は現在県内に10棟もない。寺田住職もかやぶき屋根の希少さは理解しつつも幼少期、近くで起きた火事が西風にあおられ、かやぶに燃え移ることも心配しただけに「なくなる寂しさよりも安全が第一」と話す。かやぶきを維持する手間、コストも考慮

松源寺  
津軽氏家臣の館跡に1574(天正2)年、長勝寺の和尚が隠居用の草庵を現在の鯨ヶ沢町赤石町付近に開き「松源院」と名付られた。元和年間(1615〜24年)に、前城築城に際し、近隣の他の寺とともに弘前に移転。津軽藩3代藩主信敬の側室の母の位牌を配置し「清安寺」と改称された。

移転後の跡地には、承応年間(1652〜55年)に隠居寺として松源庵が建てられた。1869(明治2)年、寺格に昇格し「赤石山松源寺」となる。現在の住職は松源庵松源寺を通し23代目檀家数約6000戸。町教委によると2007年の発掘調査で、敷地内の井戸跡から、1610〜50年代の唐津焼の皿が見つかった。



2012年(平成24年)10月10日 本報  
町教委は「老朽化での建て替えはやむを得ないが、地域の暮らしとともにあった建物。住民が歴史を振り返る材料として記録に残しておきたい」と調査の意義を強調した。



物資がもたらされた。その一つとして鳥根県西部で明治、大正期に生産された町教委所蔵の「石見焼」の水がめ2点を展示。町教委の

←「全面建て替え工事を受注された北海道札幌市・(株)北一タカハシ建設様」からの情報提供  
下段「歴史展の記事は浜田高校・阿部志朗教諭」からの情報提供

H27. 6. 5 写真受

青森県鱒ヶ沢【松源寺】

H27. 6. 24 写真受



↓ H27. 6. 24 写真受



↓H27. 8. 10 写真受け



写真提供：建築施工・瓦施工会社 札幌・(株)北一タカハシ建設

H27. 8. 11 石州瓦工業組合